

2007年度 第6回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年10月9日（火） 午後7時15分～9時15分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子
柳澤正樹、山下恭子、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：阿部靖子<以上1名、敬称略、あいうえお順>
事務局：齊藤 睦（地域福祉課長）、中澤一郎（主事）、川崎 圭（主事）
今林朝香（コーディネーター）、平田典子（コーディネーター）、丸木 敦（係長）

配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（9月）
資料 2：コーディネート状況等月次報告
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（10月）
資料 4：巨大地震に備える2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練チラシ
資料 5：2007年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
資料 6：西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会委員候補者リスト
資料 7：2008年度ボランティア・市民活動経理区分経費積算資料
学習会資料：認知症サポーターとは

委員長：定刻より少し早いが運営委員会を始める。1名欠席、1名遅刻の連絡があった。では最初に新たに加わった職員の紹介をしてほしい。

事務局：10月1日に人事異動があり、ボランティア・市民活動センター系の職員が1名増えたのでよろしくお願いします。

<委員・職員の自己紹介は記録省略>

委員長：では、月次報告から行おう。

1. 報 告 事 項

(1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

9月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき9月に行われた主な事業について報告が行われた。

委員長：メールニュースの発行数はどのくらいか。

事務局：85人を対象としている。

委員長：配信を希望する人を公募する予定はあるのか。

事務局：メールニュースに掲載する情報を集めることがまだスムーズにできていないが、将来は配信希望者を公募していきたいと思っている。

委員長：中越沖地震に伴って職員の派遣があったが、活動した感想はあるか。

事務局：刈羽村社会福祉協議会に派遣された。災害ボランティアセンターが閉じられ、そのまま社会福祉協議会のボランティアセンターとして残していくことになり、災害ボランティアセンターから通常のボランティアセンターへ移行していく過程だった。刈羽村社会福祉協議会には

今までボランティアセンター機能が無かったため、どのように運営をしていくのかということが見えない状況のように感じた。また、運営体制も厳しい状況だった。仮設住宅での被災者への支援の取り組みはとても参考になった。ニーズ把握に必要な動きなどは日常の社会福祉協議会職員の動きとしてとても大切なことと実感した。

他に質問、意見なく、9月期の業務報告を終了する。

9月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告にうつりたい。

事務局より、資料2に基づき9月のコーディネート状況の報告が行われた。

委員長：このことについて質問、意見はあるか。

質問、意見なく、9月期のコーディネート状況の報告を終了する。

10月期の業務予定

委員長：では、10月の業務予定について説明してほしい。

事務局より、資料3に基づき10月期の業務についての説明がある。

委員長：質問はあるか。

質問、意見なく、以上をもって10月期の業務予定の説明を終了する。

(2). 帰宅困難者対応訓練進捗状況報告

事務局より、帰宅困難者対応訓練準備における進捗状況について報告がある。

事務局：前回の運営委員会でご意見をいただいたゴール地点での音楽演奏の企画については、登録ボランティアに検討してもらっているところだが、現在依頼している人が難しければ、この訓練を行うにあたって最低限やらなければいけないことも滞っている状態なので、本来やるべきことに専念したいと思っている。また、トイレの問題についても帰宅困難者対応訓練実行委員会で問題提起をしたところ、トイレがゴール地点に無いということに参加者に伝えるということもこの訓練の一つなので、参加者へ情報提供をしていけば問題ないということであった。しかし、ご意見としていただいたように公民館やガソリンスタンドの協力をお願いしたいと思っている。

現在困っていることは、お汁粉の具材の無償提供をしてくれるところがないことである。今日現在、2団体から合計2万円の協賛金をいただいているので、この協賛金を使って具材を購入するということも考えたい。ゴール地点の運営に協力してくれる団体の打ち合わせ会を10月15日午後2時から開催する予定になっている。

委員長：委員から質問はあるか。お汁粉はこの訓練の全コースが共通して参加者に提供するのか。

事務局：主催者からは実行委員会の場で各コースともにお汁粉を配ってはどうかということを言われているが、お汁粉を参加者に提供するかどうかは各コースのゴール地点で個別に検討することになっている。

委員：お汁粉の具材の提供を断られたのは、お汁粉の具材だからか。

事務局：お汁粉の具材だからということではなく、やはり無償提供が難しいということだった。

委員長：運営委員は自由参加でよいのか。

事務局：自由参加ではなく、できるだけ参加してほしい。第1回打ち合わせ会を開催後、必要な人員配置を考えるので協力していただきたい。

他に質問、意見なく以上をもって帰宅困難者対応訓練進捗状況の報告を終了する。

(3).理事会報告

委員長より、9月18日に開催された理事会において職員の人事異動、帰宅困難者対応訓練に参加協力を行う旨の説明があったことの報告がある。

理事会報告に対して質問などなく理事会報告を終了する。

2. 学 習 会

特定非営利活動法人サポートハウス年輪について

【委員からの話】

認知症の強化月間ということを知っているか。西東京市役所職員、地域包括支援センターががんばって認知症を市民に知ってもらおう取り組みをしている。今日は運営委員にも認知症について知ってもらいたいと思う。

西東京市の高齢者人口の7.3%が認知症になっている。認知症高齢者がどこで生活しているかという点で65.7%が在宅で生活し、グループホームで生活している人は1.3%、特別養護老人ホームなどの施設に入所している人は4割くらいとなっている。認知症高齢者を家族だけで介護することは難しい。だから地域全体で取り組みましょうというのが認知症サポーターである。西東京市の場合、毎年1,000人ずつ65歳の高齢者になっていく。一人暮らしの高齢者と高齢者世帯が西東京市では増えている。なぜこういう人たちが増えているかということと核家族だった人たちが高齢者になっているため。その10%が認知症高齢者という切羽詰まった状況になっている。

<ビデオ上映内容>

- ・認知症についての理解
- ・認知症サポーターについて
- ・認知症キャラバンメイトについて

冊子がキャラバンメイト協会から発行されており、これを使って認知症サポーター養成講習会では話をしている。認知症は誰もがなるものであり、最初に本人が気づき、本人が一番苦しむ。まわりの人が気づく頃は、かなり認知症が進んでいる状態と思ってもよい。うつ状態と間違えてしまうこともある。認知症になっても本人にはその自覚が無く、本人はわからないという考えは間違っている。43歳という若い年齢の方でも若年性認知症になる。家族や親の問題ではなく、私たち自身の問題としてとらえてほしい。最後に、認知症サポーター養成講習会を受けると、冊子とオレンジ色のリングをもらえる。

私は、養成講習会の最後にいつも、子どもの詩を読んでいる。またアンケートを最初と最後に行っているが、認知症に対するイメージが変わったという人がほとんど。このような認知症に対する理解を広める活動は大切だと思っている。今は、認知症サポーター養成講習会の講師になるキャラバンメイトは、西東京市には4人しかいない。これからはもっと増えると思う。みなさんもぜひ認知症サポーター養成講習会を受けてほしい。それぞれの団体で講習会を開きたいという希望があれば協力できるので、声をかけてほしい。

【質問・意見交換】

委員長：質問や意見はあるか。

委員：イオン株式会社でもこのような取り組みを行っているのではないかと。
委員：ジャスコでやっていると思うが。
委員：銀行でも取り組んでいる。
委員：自分が所属する団体でも考えてみたい。
委員：認知症サポーター養成講習会を行いたいという時は、西東京市役所の高齢者支援課へ相談してほしい。
委員長：それではこのへんで学習会を終了したい。

3. 審 議 事 項

(1). 2007年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：訂正などの意見はあるか。
委員：資料7ページ45行目「～1回ずつ担う～」を「～数回担う～」としてほしい。
委員長：資料7ページ31行目「西東京市献進協議会の活動について」を「西東京市献血推進協議会の活動について」、資料8ページ39行目「こういった人が時期運営委員には～」を「こういった人が次期運営委員には～」と訂正するように。

以上3箇所を訂正する意見があり、修正のうえ第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

(2). 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会委員候補者について

事務局より資料6に基づき、運営委員会委員候補者の事務局案の説明および、現運営委員の任期および担当理事の任期に関して運営委員会設置規則の改正をしたい旨の提案がある。

事務局：新たに1名の候補者をリストに加えている。また、今回どうしても新たに1名を増やさなければならぬとは思っていないので、増やすことを見合わせることもあってよいのではないかと考えている。
委員長：事務局から説明があったが質問、意見などあるか。ちなみに自分が所属する団体では、理事は2年3期を限度としているが代表理事はその任期とは別に2年3期までとしている。
委員：次の任期のときに残る委員が少ないので、どうなるのかが心配だ。
委員：運用上の問題だと思うので、現運営委員の任期の延長と担当理事の任期の扱いについては支障がなければ賛成だ。
委員：現運営委員の任期の延長の提案には賛成する。担当理事の任期についての提案だが、確認だが2期やらなければいけないということか。
委員長：最長で2期までできるということ。運営委員会設置規則の改正案の表記はそのように表現したほうがよい。

現運営委員の任期満了日を3月31日とすること、および担当理事の任期を運営委員の任期とは分けて考えることを全員一致で承認した。

委員長：では、次に新たに加える1名の候補者について意見をもらいたい。
委員：これだけのリストが出てくることがどうなのだろうか。今回1名増やすことを見送ることは反対だ。ボランティア・市民活動センターを多角的に運営していくことも必要だと思う。
委員：同様の意見だ。候補者リストの中には知っている人もいるが、子ども関係で活動している人はどうか。
委員：男女比を考慮してはどうか。
委員：任期満了日を3月31日とするならば、最初からそのようにしてはどうか。

- 委員長：任期を4月1日からとするという方法もある。委員の任期満了日を3月31日とすることでよいか。
- 委員：新たに候補者リストに加わった人の活動背景を教えてください。
- 委員長：役所の職員だが役人タイプではない。社会教育に携わっている人のネットワークにも入っており、ユニークな人。地域活動としては、10年以上の経験がある。団体の会長職も担っていて信頼できる人だと思う。
- 委員長：運営委員として行政職員はどうか。
- 委員：行政職員はその立場があるので、難しいのではないか。
- 委員長：そういうことであれば運営委員会として行政職員との懇談会を企画してはどうだろうか。
- 委員：現運営委員の任期満了日を3月31日としたので、新たな委員の任期も4月1日から3月31日までとしたほうがよいと思う。
- 委員長：それでは、新たに加わる1名の任期を4月1日からとして、それまでに運営委員会で候補者を検討していくとしたいがそれでよいか。

協議の結果、新たに加わる1名の委員の任期を4月1日からとして、運営委員会で候補者を再度検討していくことを確認した。

(3). 補助金申請に伴う2008年度事業および予算について

資料7に基づき、事務局より2008年度の新規事業を中心に、事業内容および実施に伴う予算案の提案がある。

- 委員長：資料として出されている積算根拠の詳細部分は必要ないのではないか。独自財源として、講師を引き受けたときの謝礼は収入として見込まないのか。
- 事務局：講演などでの講師の依頼は、確実な予定が立たないので見込むことは難しいと思う。
- 委員長：営業して講師を務めるということもあってよいのではないか。
- 委員：来年度の予算は今年度と比較して収入が減っているにもかかわらず、支出が増えているが、そのような予算でよいのか。
- 事務局：見込んだ収入が得られなかった時にどうするかが問題だと思う。
- 委員長：NPO 団体は収入の見込みを立てて、その収入が得られるように努力をして運営している。それが普通だ。
- 委員：来年度は、企業を対象とした調査を行う予定になっているが、その結果を報告書としてまとめ販売し、自己財源にしてはどうか。
- 委員長：考えているのは本格的な調査ではなく、企業の懇談会を開催する際に参考になる程度のアンケート的なものなのではないか。他に意見、質問が無ければこれで補助金の申請をする。

以上の意見が出され協議の結果、事務局案のとおり西東京市へ2008年度の補助金申請を行うことを承認した。

以上をもって、2007年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。